

ああ、戦争がなんて考えて、今でも戦争をやってもいいじゃないかと思っている人がいる。しかし、戦争は絶対だめ。戦争というのは、相手を殺さなかつたら自分が殺されるから。

満州で私は見ましたけど、例えば、あそこに人がいる。あの人は味方が敵かわからない。なら、殺しちゃまえと言うわけですからね。殺しちゃうわけですから。あれ、邪魔だからやっちゃまえ。そういうことです。

戦争をやったら本当に惨めです。人が滅びるだけでございます。戦争は絶対にやってはいけません。そのようにしていただきたいのであります。

モンゴル、ウランバートル抑留記

栃木県 上野省 吾

望郷の日々

昭和十八（一九四三）年十二月一日いわゆる、学徒出陣の名のもとに私は宇都宮市の第五十一師団通信隊補充隊（東部第四十三部隊）に現役兵として入隊した。その後、幹部候補生となり神奈川県相模原市の陸軍通信学校幹部候補生隊に入校。八カ月の厳しい幹部教育を終え、昭和十九年十二月二十三日、同校卒業と同時に見習士官となり、支那派遣遣軍に転属、電信第二十九連隊へ、北支派遣甲第一二五〇部隊付を命ぜられ、昭和二十年一月二十日、北京北郊城外にある同隊に着任した。それから約六カ月北京周辺の治安維持と通信網の確保、初年兵教育の任に当たっていた。八月七日ソ連参戦、ソ蒙軍の満州侵攻となり、国境周辺地帯はにわかには緊迫の度を加えるに至った。

八月十一日私にとっては運命の岐路の日が訪れたのである。満州国承徳の歩兵第二四〇連隊へ派遣を命ぜられた。なぜ承徳の部隊に北支派遣軍通信隊から派遣されるのか、下級将校には軍上層部の戦術構想など知る由もなく、命令を受けたからには一刻の猶予もできず、直ちに通信機の整備を整え、兵員を連れて空路承徳飛行場へと飛び立ったのである。夕刻部隊到着、直ちに北京との通信連絡を開始するも空界の状況悪く容易に交信できず。苦勞の末、ようやく通信網確保するも八月十五日ついに終戦。八月十九日承徳において武装解除を受く。将校は全員承徳刑務所に収監され、今日か明日かと銃殺刑の日を待つ心境であった。

どうにか銃殺だけは免れ、九月十五日承徳出発、無蓋貨車に詰めこまれて日本帰還と騙され続けながら遂にソ連領へと連行され、外蒙古ウランバートル郊外の缶詰、羊毛、工場付設の捕虜収容所へ収容される身となったのである。

十月のモンゴル高原は冬の季節、ウランバートル

ル北西部の丘上にある収容所から目に映る渺々たる草原と、どこまでも続く小高い褐色の山々、荒涼たるその光景を眺める時、もう二度と故国の土は踏めないと絶望感に打ちひしがれたものである。

最初はソ連従業員の社宅のような建物に収容され将校団ということで労働もなかったが、それも束の間、そのうち半地下式の囚人刑務所だった収容所に移されてからは来る日も来る日も煉瓦作り、土工作业、森林伐採等強制労働の明け暮れだった。何の特技もない者は建設工事の雑役や土木作業に従事させられ、ノルマに追われ、飢えと寒さに耐えながら生命を維持してゆくのがやっとの毎日であった。

コックリさん（狐狗狸）の占いに一喜一憂し、夢に出てくるのは食べ物と故郷の山河、懐かしい肉親の夢ばかりで、そんな状況の中で三度目の冬を迎えようとしていたとき、突然、移動命令が舞い込み、ダモイ実現の日が訪れた。

十月十九日収容所出発、ガンドンからトラック

に分乗、スフバートルへ、そこからウランウンデ
經由シベリア鉄道に乗換え、一面の雪原の中をナ
ホトカへ向ったのである。

そして十一月ナホトカ着、人民裁判の洗礼を受
け、ようやく復員船（北鮮丸）に乗船、十一月十
五日ナホトカ出航、十一月十八日函館港上陸、故
国日本の土を踏む。感無量なり。

茫々^{ぼうぼう}六十有余年の歳月を超えて今シベリアを思
うとき、あの辛酸を極めた強制労働の明け暮れも、
酷寒の荒野にあつてただひたすら帰国の日を一縷^{いちろ}
の望みに託して生きてきた収容所での生活も、年
月の経過と共に次第に記憶も薄れ、今正に風化し
ようとしている。

戦後六十二年、繁栄を極める日本にあつて今の
私共の生活をみる時、シベリアで生きてゆく極限
の中で望郷の念に駆られつつ、異境の地に逝った
戦友の無念さを思うと、うたた断腸の思いから
れるのを禁じ得ない。

還らざる友のご冥福を心から祈るのみです。

シベリア抑留記

神奈川県 山田 貞 治

本籍地 群馬県山田郡大間々町字桐原

生年月日 大正十三（一九二四）年九月十四日生

学 歴 芝浦高等工学校附属工科学学校機械科

卒業

職 歴 昭和十六年十月三日 国鉄大井工場

工機職場就職 横浜機械区配属

家 業 父（国鉄職員）母 第二人（就職）

妹 弟（学生）

昭和二十（一九四五）年三月七日入営者は群馬
県の高崎駅に午後一時に集合し、午後二時の列車
に乗車し、上野駅にて下車。案内人の指示で東京
駅へと向かう。東京駅は夜行列車に乗車するため
列から離れないように待合室にて待機。東海道線
急行列車大阪行、午後九時に乗車し大阪駅着午前
五時で、下関駅列車は同ホームの左側に待ち受け